

2004年7月アルゼンチンの政治情勢

2004年8月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

ピケテログループの活動が活発化する中で、市民共同生活条例改正案に反対して、ブエノスアイレス市市議会等が襲撃されるという事件が起こり、同事件をきっかけとして、ベリス司法相、クアンティン国内治安長官及びプラドス連邦警察庁長官が更迭された。また、10年前より2つに分裂していた亜最大労組CGTが、暫定的に1年間の再統一を果たした。1994年のAMIA爆破事件から10年が経ち、キルチネル大統領は昨年について記念式典に出席した。

外交面では、メルコスール首脳会議が亜で行なわれ、キルチネル亜大統領、ルーラ伯大統領、ドゥアルテ・パラグアイ大統領及びバジェ・ウルグアイ大統領の他にフォックス・メキシコ大統領等も参加し、メルコスールの強化について話し合われた。我が国からも、有馬政府代表が特別招待者として出席した。その他、キルチネル大統領は、ボリビア及びベネズエラを訪問し、メサ・ボリビア大統領及びチャベス大統領とそれぞれ会談した。

2. 内政

(1) ブエノスアイレス市議会襲撃

(イ) 16日、約500人の左翼集団、路上販売者、売春婦、女装男性等が、路上販売、売春等を規制するブエノスアイレス市市民共同生活条例改正に反対するとともに、同改正案審議の傍聴拒否に怒り、首都中心部にある同市議会を襲撃した。また、左翼活動家及びピケテロ等は、この状況を利用して、暴力行為を繰り返した。

(ロ) 約5時間に亘る鉄棒等を用いた襲撃により、市議会に押し入ることはできなかったものの、73年の歴史のある市議会の4つのドアやガラスが全て破壊された。

(ハ) 襲撃より3時間半後、ようやく連邦警察が介入し、催涙ガスやゴム弾等で対応した。

(ニ) 同襲撃により、警察官、新聞記者、市議会職員等を含む13人以上の負傷者、24人の逮捕者が出た。

(ホ) 事前に予防策がとられなかったこと、及び襲撃後に警察の対応が遅れたことについて、イバラ・ブエノスアイレス市長やソラ・ブエノスアイレス州知事等国内から様々な批判の声が上がったが、キルチネル政権は、抗議活動に対し強権的な抑止はしないとの立場をその後も維持した。

(2) ベリス司法相等の更迭

(イ) 22日、同日のブエノスアイレス市議会の警備に際し、警察官が「凶器となる武器」を携行してはならないという政府の指示に従わなかったとして、プラドス連邦警察庁長官

が解任された。

(ロ) 24日、ベリス司法相は、「国家情報庁 (SIDE) 等にマフィアのようなセクターが存在している」と批判したこと等を理由に更迭された。昨年5月のキルチネル政権発足以来、初めての閣僚更迭である。また、同日、キルチネル大統領の治安政策に従わなかったとして、クアンティン国内治安長官が更迭された。

(ハ) 26日、オラシオ・ロサッティ新司法相及びアルベルト・イリバルネ新国内治安長官が就任した。

(3) 労働総同盟 CGT 統一

(イ) 14日、10年前より2つに分裂していた亜最大労組 CGT が、暫定的に1年間再統一した。

(ロ) 統一後1年間は、これまで CGT 分派代表であったモジャノ及び CGT 主流派の2名 (リンヘリ及びルエダ) から成る3人が、共同代表者を務める。1年後に代表組織の見直しが行なわれ、統一 CGT が継続する場合はモジャノが単独代表者になると見られている。共同代表者の一人であるルエダは、初の女性執行部入りとなった。

(ハ) 20日、統一 CGT 共同代表3人は、キルチネル大統領と会談し、最低賃金の値上げ等を要求した。

(4) イスラエル共済会館 (AMIA) 爆破事件10周年式典

(イ) 18日、イスラエル共済会館 (AMIA) 爆破事件10周年式典が開かれ、キルチネル大統領夫妻他約12000人が参加した。

(ロ) 昨年に続き2度目の出席となったキルチネル大統領は、スピーチは行なわなかったが、事件解明に向けて努力する姿勢を見せた。

(ハ) AMIA、在亜イスラエル協会 (DAIA) 及び被害者の会等のユダヤコミュニティは、未だ事件解明がなされないことに対して強い憤りを感じており、メネム元大統領、メネムと繋がりがあったとされているユダヤコミュニティの旧指導者、連邦警察、国家情報庁 (SIDE)、当初 AMIA 事件を担当していたガレアノ連邦予審判事等を批判した。

(ニ) 19日、カウル AMIA 代表は、記者会見において、AMIA 事件で逮捕されているテジェディンの電話通信が記録されている約45本のカセットテープが見つかったとキルチネル大統領が発言したことを明らかにした。しかし、20日、キルチネル大統領は、同発言を否定した。

(5) 最高裁人事

(イ) 7日、アルヒバイ最高裁判事候補 (旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所裁判官) は、上院本会議において、7時間に及ぶ議論の末、承認を得た。墮胎合法化支持、無神論が争点の中心であった。

(ロ) 同候補は、サファロニ判事及びハイトン判事に続き、キルチネル政権下における3人目の最高裁判事となる予定である。

(ハ) 同候補が最高裁判事に就任すると、最高裁の判事の空席は無くなり、判事9人が全員揃うことになる。

3. 外交

(1) メルコスール首脳会議

(イ) 7-8日、亜のプエルトイグアスにおいて、第26回メルコスール首脳会議が開催された。キルチネル亜大統領、ルーラ伯大統領、ドゥアルテ・パラグアイ大統領及びバジエ・ウルグアイ大統領のメルコスール各国大統領が出席したのに加え、メサ・ボリビア大統領、ラゴス・チリ大統領、フェレロ・ペルー国際通商・観光大臣（以上、準加盟国）の他、フォックス・メキシコ大統領、チャベス・ベネズエラ大統領、サントス・コロンビア副大統領、有馬日本国政府代表及びファラット・エジプト政府代表が特別招待者として参加した。首脳会議後、「加盟国大統領共同コミュニケ」等が発出された。

(ロ) フォックス・メキシコ大統領は、メルコスール準加盟国入りを正式に要請した。

(ハ) 5人の裁判官から成るメルコスール常設仲裁裁判所が、8月15日にアスンシオンに開設されることになった。

(ニ) 8日、懸案事項となっていた亜の対ブラジル家庭電化製品輸入規制に関して話し合うため、キルチネル大統領は、メルコスール会議の直前にルーラ・ブラジル大統領と会談を行なった。問題解決には至らなかったものの、長期的な産業開発を共に促進していくことが約束された。

(ホ) ドゥアルデ・メルコスール常設委員会委員長は、数ヶ月ぶりにキルチネル大統領と対面したが、両者の個別の会談は行なわれなかった。

(2) ボリビア

(イ) 22日、キルチネル大統領はボリビアを訪れ、メサ・ボリビア大統領と会談した。

(ロ) 両大統領は、持続的且つ公平な開発のための唯一の手段として、民主主義及び制度強化を謳う共同宣言文に署名した。

(ハ) また、両国大統領は、亜へのボリビア産天然ガス輸出拡大に関する合意覚書に署名した。

(3) ベネズエラ

(イ) 23日、キルチネル大統領は、カラカスでチャベス・ベネズエラ大統領と会談し、亜が2005年も引き続きベネズエラ産石油を輸入すること等の様々な経済協定に署名した。

(ロ) キルチネル大統領は、ベネズエラで8月15日に行なわれる大統領罷免国民投票を

前に、バランスを保つため、反政府派とも会談を行なった。

(4) 要人往来

(イ) 来訪

- 7日、 ルーラ伯大統領、ドゥアルテ・パラグアイ大統領、バジェ・ウルグアイ大統領、メサ・ボリビア大統領、ラゴス・チリ大統領、フェレロ・ペルー国際通商・観光大臣、フォックス・メキシコ大統領、チャベス・ベネズエラ大統領、サントス・コロンビア副大統領、有馬日本国政府代表及びファラット・エジプト政府代表（メルコスール首脳会議）
- 19日、 アスナール西前首相

(ロ) 往訪

- 6月27－1日、 キルチネル大統領、中国へ
- 22日、 キルチネル大統領、メサ・ボリビア大統領と会談するためにボリビアへ
- 22－23日、 キルチネル大統領、チャベス・ベネズエラ大統領と会談するためにベネズエラへ
- 27日、 ビエルサ外相、ラチド・パラグアイ外相と会談するためにパラグアイへ